

遺伝情報を活用した育種による養殖の成長産業化

R7年度事業費：22,730千円
実施期間：令和7～9年度

目的

真珠、青さのり、マハタ養殖では、近年急速に進む高水温化や栄養塩類の減少等の海洋環境の変化により生産量の減少が続いています。本事業では、遺伝情報を活用した育種によって、海洋環境の変化への適応を図り、県内養殖業の成長産業化を実現します。

	真珠	青さのり	マハタ
必要性	急速に進む海洋環境の変化に適応し、生産量を回復させるため…		
	高水温や餌不足でも高生長かつ高品質な真珠を作るアコヤガイが必要	高水温の環境でも高生長・遊走子を放出する青さのりが必要	高水温の環境でも病気になりにくいマハタが必要
取組	「三重県アコヤシードバンク」のもと、これまでの事業により収集した天然アコヤガイ6系統について、新たに高生残や高成長などの優良特性を評価します。評価した優良特性と各系統の遺伝情報を活用して、系統間の交配を行い、現在の厳しい環境でも高成長かつ高品質な真珠を作るアコヤガイを作出します。 	県内各地から青さのりを収集し、培養試験による生長比較によって地域ごとの特性を明らかにします。得られた生長特性と遺伝情報を活用して、現在の漁場環境でもよく生長する優良な養殖株を探索・普及します。また、これまでの事業で実証した遺伝情報を活用した海水中の種の検出技術を用いて、優良株の探索に取り組みます。 	遺伝情報を活用し、多数の親魚候補から効率的に高耐病性親魚を選定する手法を開発します。また、当該手法を活用して耐病性親魚を選定し、高耐病性種苗の生産に取り組みます。 
効果	得られた品種が普及することで、経営体あたりの生産量の増加を図り、養殖業の成長産業化を実現します。		